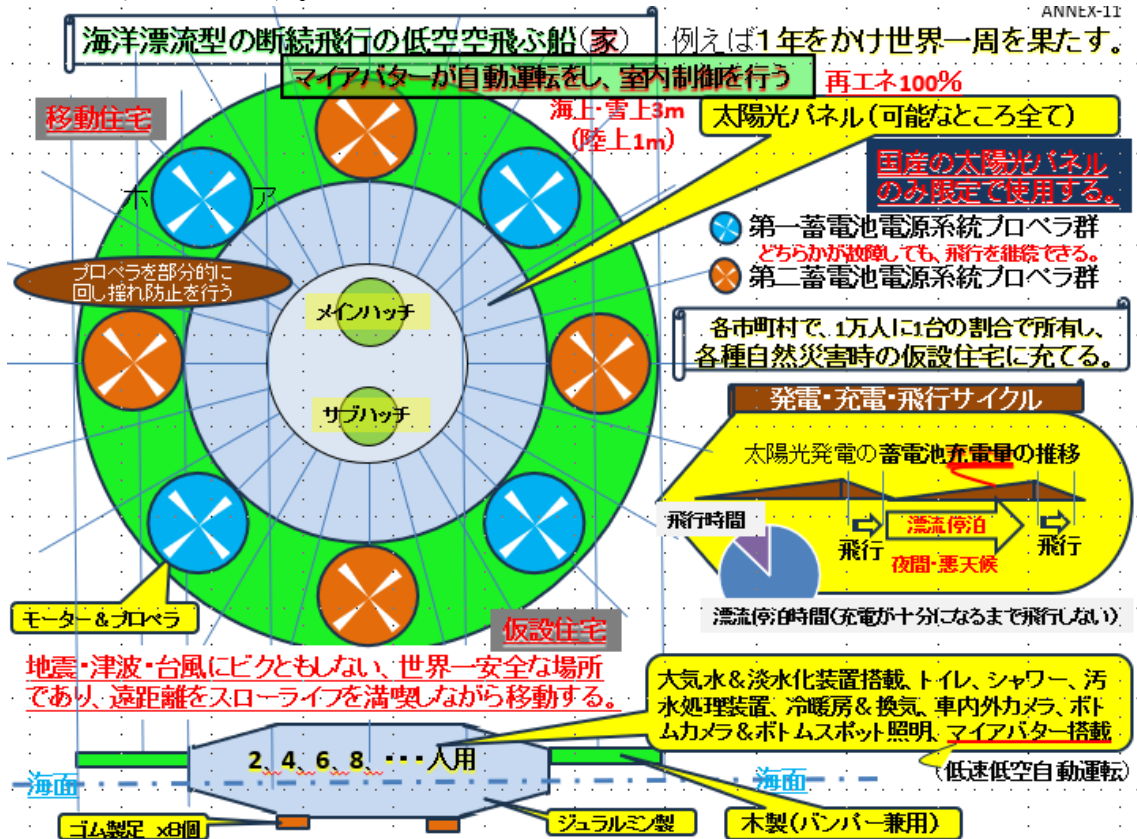


安全な空飛ぶ車の世界的普及で、再び国際競争力一位に帰り咲く

従来の「空飛ぶ車」の表看板を変えることなく、危険な「空飛ぶ車」から、改称して（又は、改称しなくても意識づけだけでもよい）「安全な空飛ぶ車」＝低空・低速（障害物を躲す、あるいは障害物が移動するまで待機する）にし＝**落下してもケガをしない空飛ぶ車にすることで、とてつもなく大きな利益を生むと**考えています。



https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_73e6a5d6429040a296de32dd44c7c663.pdf

(↑の ANNEX-10 ~ 19 をご参照)

離島や無人島（人が住めるようになる）の足として、雪国の冬の足として、また雪国の物流用途として、オーロラ観察や生態観察用途として、テレワークをしながら、安全に世界一周（断続飛行）を試みる老若男女が急増し、また各種観光目的として運用できるので、超強力な輸出産業になると考えています。

国民向けのには、全く方針変更がないように見えて実質は大きく変容する。

	公的なネーミング	業界内ネーミング	内容
従来(過去)	空飛ぶ車	空飛ぶ車	安全性への配慮が不十分
25年4月1日	空飛ぶ車	安全な空飛ぶ車(船) (常態化するまで)	全国の市町村で準備開始 (運用面と輸出産業化)
将来的には	空飛ぶ車・船	空飛ぶ船・空飛ぶ車	用途別で細かく分類する。

東京都の場合は他に、小笠原諸島や伊豆諸島への足としても考えられますが、手始めとして、羽田ー豊洲ルート、羽田ーデズニーランドルート、豊洲ーデズニーランドルートを運行するとよいと考え、提案します。

一台で12人乗り、24時間3分毎に離発着しても間に合わない想定され、小グループごとの抽選会を設定し、しばしの空の旅（低空・低速だから面白いという側面もあります。）を楽しめると思います。



(国際競争力UP、GDPUP、給料UP、雇用UP、24時間いつでも安全に移動する)

落下前提&バッテリー切れ前提の「安全な空飛ぶ船」であり、またドローン技術 AI 技術等、既に技術的には十分出揃っており、国策&全国の市町村で協力し、また全国の可能なメーカーが協力し合い、必要に応じ海外メーカーの協力を仰ぐことで、2027年のクリスマス商戦に間に合うかも知れません。

<補足説明>

「安全な空飛ぶ車」＝「人を乗せる太陽光発電の安全飛行ドローン」では、事故故障前提&バッテリー切れ前提の安全性があり、再生可能エネルギー（太陽光発電）：当初は一般電力からの充電併用、特許技術（特許申請中：下記 URL 参照）で守られ、ほぼ日本企業が独占状態になり、全国の市町村様にて、関連の何らかの工場誘致が可能と考えており、地方の活性化、給料大幅UP、GDPの大幅UPが見込まれると考えられます。

<特許草案>

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_dad8da0906074208bb9f4e5cbdd83bc7.pdf

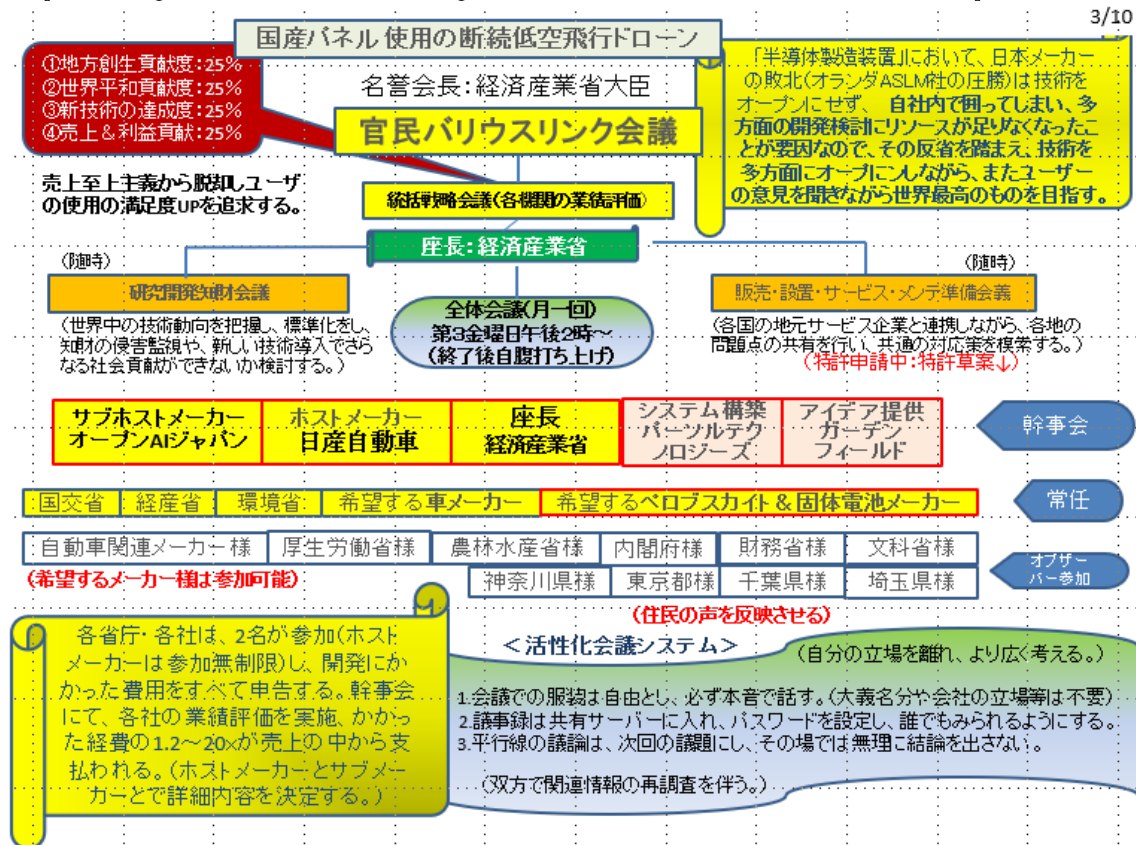
木造人工島で検索をされ、ガーデンフィールドのホームページの中の項目、「断続飛行ドローン特許草案」をクリックでも、同内容を見ることができます

<船酔い防止システム>

「人を乗せる太陽光発電の安全飛行ドローン」は海上での待機時間が長く、小型船として考えた場合に、やはり船酔いが気になる場所ですが、AI 技術により、180度方向 (=360度の全方位のこと) の波に対し、どのプロペラを回転数いくらかで回せばよいかを瞬時に判断して、波による横揺れを防止できると考えています。(↑船酔いは発生しない)

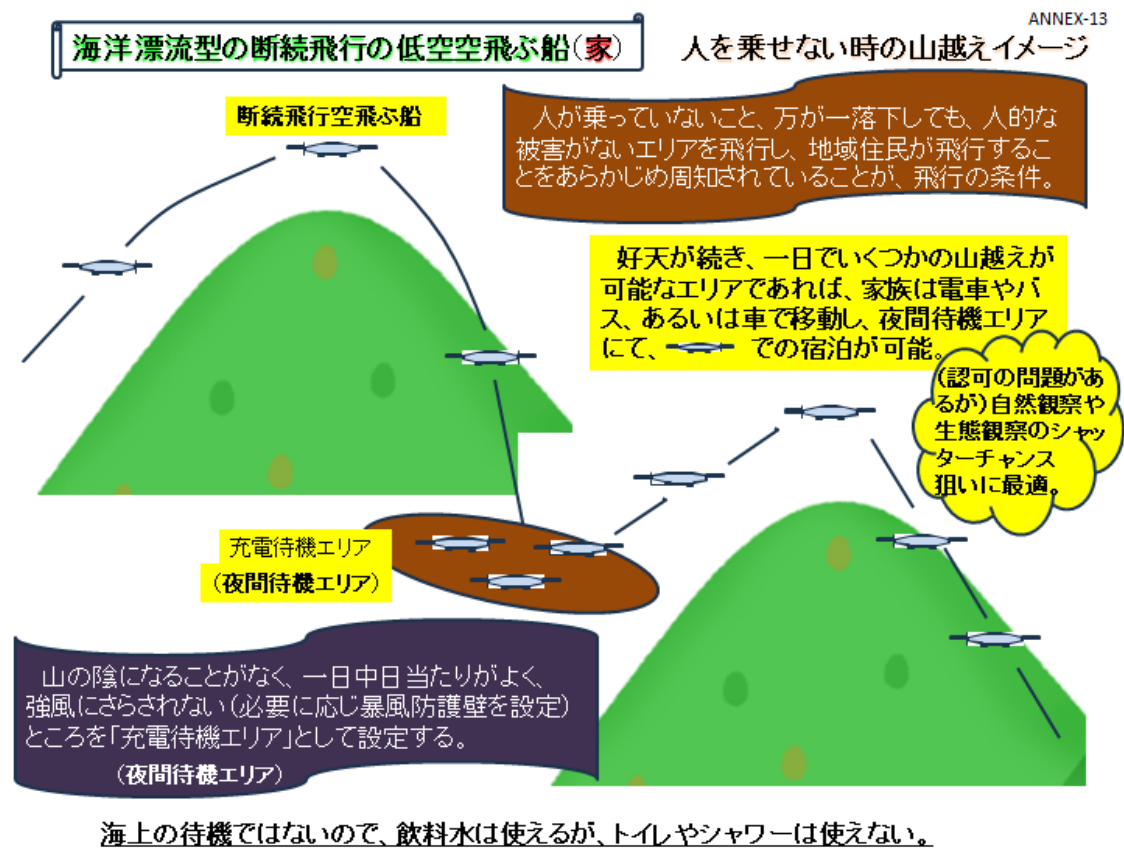
進め方「**連携システム**」として、また、日産をはじめとする、日本の自動車メーカーの衰退(中国に対しAI技術が遅れ、開発・製造・製品機能で劣る)防止策として、「断続飛行ドローンの官民連携バリウスリンク会議」を提案しています。

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_d8d5f9449ffa4cbf935b948b4c291716.pdf



「人を乗せる太陽光発電の安全飛行ドローン」では、人を乗せない時は、落下しても安全なエリアのみを飛行し、また飛行エリアや飛行時間等をあらかじめ、あるいはタイムリーにスマホアプリ等で通知をするようにしますので、鉄

塔などの障害物よりも高く飛行することがあります。（人を乗せている場合は雪上・海上3m、陸上1mが基本）



「人を乗せる太陽光発電の安全飛行ドローン」では、（途中で補給&ゴミ出しが必要ですが）何年でも、再エネ住宅として住めるものになっており、例えば各市町村様にて「復興住宅」としてプールしておき、どこかで自然災害により、復興住宅をすぐに必要としていたら、近隣の市町村様より自律飛行での調達が可能であり、遠方の市町村様からは複数の待機所を経て（何日か後に）、復興住宅が自らやってきてくれます。

「人を乗せる太陽光発電の安全飛行ドローン」は、住居としてや移動手段として、必世界中で必要としており、（当面特許で守られ）日本が独占的に、全国の市町村で製造し、雇用（給料UP）・国際競争力（GDP）UP・そしてとても安全で便利な社会が実現します。

「従来の空飛ぶ車が危険な理由」(詳細資料を別途用意しています。)

撮影用や農薬散布用途等の小型ドローンは、全国で原因不明の落下が頻発しています。(ドローンとは落ちるものという概念があります。)一方で、ミリタリー規格の高価な自衛隊ヘリも原因不明で落下し、死亡事故が時々発生しています。従いましてドローンの一種の空飛ぶ車も同様な死亡事故が発生し、危険です。